能勢朝次著作集編集委員会編

能勢朝次著作集

第三巻　近世和歌研究

思文閣出版

能勢朝次著作集　第3巻　近世和歌研究

定価 6,400円
1983年10月1日　発行

著　者　能勢朝次
発行者　田中周二
発行所　株式会社思文閣出版
〒606　京都市左京区田中関田町2－7
電話（075）751－1781　振替京都26228
印　刷　株式会社図書印刷同朋舎
製　本　株式会社大日本製本紙工

第7回配本　3390－022972－3402

I　近世和歌史

緒　言……3
第一章　元禄以前の堂上風……6
一　細川幽斎……9
二　烏丸光広および資慶……11
三　後水尾院……15
四　中院通村および通茂……17
五　松永貞徳……20
六　宮川松堅……22
七　望月長孝……23
八　北村季吟……25
九　元政上人……25
十　木下長嘯子……26
第二章　元禄期の革新運動……29

一　木瀬三之……30
二　下河辺長流……31
三　契沖……34
四　戸田茂睡……36
第三章　荷田在満と『国歌八論』……42
一　荷田在満……42
二　田安宗武の『国歌八論余言』および『歌体約言』……49
三　賀茂真淵と『国歌論臆説』および『再奉答金吾君書』……50
四　大菅公圭の『国歌八論斥非』……51
五　本居宣長の『八論』評および『斥非』評……53
六　伴蒿蹊の『国歌八論』評……54
第四章　賀茂真淵および県門万葉派……57
一　賀茂真淵……57
(一)　真淵の歌論……58
(二)　上代歌謡に対する真淵の見解……59
(三)　和歌変遷……59
(四)　詠歌の模範……60

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

(五)　真淵の作品について……62
二　真淵門下の歌人……64
(一)　田安宗武……65
(二)　揖取魚彦……67
(三)　荒木田久老……68
(四)　加藤美樹……70
(五)　上田秋成……71
(六)　県門三才女（油谷倭文子・鵜殿よの子・土岐筑波子）……73
第五章　本居宣長および鈴屋派……77
一　本居宣長……77
(一)　宣長の歌論……78
(二)　宣長の作品について……88
二　宣長門下……90
(一)　本居春庭……91
(二)　本居大平……92
第六章　江戸派……94
一　加藤枝直……94

二　橘千蔭……98
三　村田春海……102
四　清水浜臣……108
第七章　小沢蘆庵とただこと歌……110
一　小沢蘆庵……110
(一)　反万葉派思想……111
(二)　ただこと歌の主張……113
(三)　修養論……114
(四)　同情説および新情説……116
二　蘆庵門下とただこと歌の展開……120
第八章　香川景樹と桂園派……122
一　香川景樹……122
(一)　景樹の歌論……123
(二)　調べの説……126
(三)　景樹の歌風……134
二　桂園派の歌人……137
(一)　熊谷直好……137

(二)　八田知紀……140
(三)　木下幸文……145
(四)　菅沼斐雄……148
(五)　高畠式部……149
(六)　柳原安子……150
第九章　元禄以後の二条派および冷泉派……152
一　霊元院……152
二　武者小路実陰……154
三　似雲……157
四　澄月……159
五　烏丸光栄……163
六　冷泉為村……167
七　萩原宗因……169
第十章　北辺家の歌学……171
一　富士谷成章……171
(一)　六連説……172
(二)　五体論……174

(三) 五級三差……176
(四) 詠歌法……176
(五) 六則論……177
二 富士谷御杖……183
(一) 詠歌の目的論……184
(二) 神道と歌道……185
(三) 御杖の神道説の大要……186
(イ) 心の種類　(ロ) 為(わざ)の四種　(ハ) 神道と時宜
(四) 御杖の歌道説……190
(イ) 歌道の本義　(ロ) 言語と和歌　(ハ) 真と私と公と神と
(ニ) 言霊(ことたま)説　(ホ) 言霊説と古歌の解釈
(五) 歌道修行説……196
(六) その他の歌学上の意見について……197
(七) 御杖の歌論の批評……197
(八) 御杖の和歌……199
第十一章 幕末歌人……200
一 良寛……201
二 橘曙覧……205

（一）曙覧の歌論……207
（二）曙覧の歌風……208
三　大隈言道……215
（一）言道の歌論……215
（二）言道の歌風……220
四　平賀元義……223
五　大田垣蓮月……226

Ⅱ

『古今集』序六義の再検討

一　六つのさまおよび例歌の検討……233
二　六義と六つの歌ざまとを分離する考え方の検討……238
三　六義と六つの歌ざまの合致せぬ理由……241
四　仮名序に現われたる国民的自覚の姿……245
五　各名目の解釈……248

六条家の歌人とその歌学思想

はしがき……257
一　顕季と彼の歌学思想……259
一　藤原顕季……259
二　顕季の歌学思想……261
三　源俊頼の和歌思想……274
四　藤原基俊とその和歌思想……281
五　新派的傾向について……288
二　藤原顕輔と彼の歌学思想……292
一　藤原顕輔……292
二　顕輔の歌学思想……294
三　藤原清輔と彼の歌学思想……309
一　藤原清輔……309

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

二　二条院と清輔……312
三　九条兼実と清輔……316
四　清輔評……319
五　清輔の歌学……322
六　判詞より見たる清輔の和歌思想……326
（一）題意について……326
（二）構想について……327
（三）心の問題……330
（四）姿について……334
（五）詞について……336
（六）新古の論……339
（七）歌病に関して……340
七　俊成と清輔の比較……342
四　顕昭法橋と彼の和歌思想……354
一　顕昭の和歌思想……364
（一）『万葉集』に対する見解……365

(二) 和歌に詠む境地を自由ならしめ拡張する点……367
(三) 旧慣になずむなかれとの説……369
(四) 和歌と事実……374
(五) 近体・古体について……376
(六) 顕昭の判詞について……377
(七) 余情・余韻について……380
(八) 表現・心に対する理解……381
(九) 顕昭と新古今風……383
二 顕昭・俊成の対比……385
(一) 心の問題……385
(二) 詞の問題……386
(三) 余情論について……388

さま・姿・風体

一 さま……393
二 姿……395

三　風体……397
『愚問賢註』の一摸象……399
心敬寸言……406
解説……（小西甚一・野々村勝英）……413
補注……野々村勝英……427

◇装丁　粕谷　弘

近世和歌史

緒言

江戸時代の和歌の変遷を見渡すと、江戸以前の和歌のそれとはなはだしく趣を異にしているところは、作家の多くがまず自覚を持って和歌に臨んで来たことである。この自覚には直観と反省の二面の動きが見られる。芸術的直観と学問的反省と、この二面は江戸時代歌人のもついちじるしい特色である。人丸にしろ赤人にしろ、俊成にしろ西行にしろ、彼らはいわば歌人としての芸術的直観に生きた人である。そこから金玉の佳什を生み出した詩人である。足利期の歌人などになると、この直観ということを忘れて歌という形態のものを製作していた。また師承伝受の歌学知識を金科玉条として、かつてそれに学問的反省を加えようとしなかった。平安朝期における紀貫之、鎌倉期における藤原定家、この両人などは直観力と同時に学問的反省をもそなえていたが、江戸期の歌人の多くはそれらの行き方に自然と似通っているのである。ここを見るのが近世和歌史研究の面白いところである。

歌人の持つ芸術的直観や創造的過程の問題は次にして、まずその自覚における反省的方面について考えて見る。反省といっても創作に対する批判や優劣の判断などはすでに万葉時代から見えているので、『万葉集』巻十九の中に大

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com